

[JJ] Eveningポスター発表 | セッション記号 U (ユニオン) | ユニオン

[U-08] 地球惑星科学分野における将来計画とロードマップ

コンビーナ: 藤井 良一(情報システム研究機構)、春山 成子(三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻)、田近 英一(東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻、共同)、川幡 穂高(東京大学 大気海洋研究所)
2018年5月21日(月) 17:15 ~ 18:30 ポスター会場 (幕張メッセ国際展示場 7ホール)

本セッションは、2020年に改訂される「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」の策定等を視野に入れつつ、地球惑星科学分野の発展に必要な将来計画を広く議論し、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」の具体化、改善に資することを目的とする。

個々の研究者が行う基礎的・応用研究を基盤として、より広い学術領域や分野の発展の骨格となる研究計画とその実現の道筋を示すロードマップの策定が、地球惑星科学を含む多くの分野における学術の進展にとり極めて重要である。この策定の一環として、日本学術会議は夢ロードマップの策定とマスタープランの策定を行なってきた。本ユニオンセッションでは2020年のマスタープランの本格的改定を見越して、地球惑星科学分野の各領域での夢ロードマップ2014からの変更点を点検し、領域で検討されている大規模な研究計画、さらに領域を超えて実施が検討されている計画を持ち寄り、より具体的な夢ロードマップ策定に向けたキックオフを行うことを目的としている。地球惑星科学5領域からの積極的な将来計画や夢ロードマップの提案、さらに分野間をまたぐ意欲的な提案と積極的な議論を期待する。

[U08-P08]地球衛星観測システムの構築

祖父江 真一¹、*中島 映至¹、高藪 縁²、本多 嘉明⁴、笠井 康子³、高橋 暢宏⁶、江淵 直人⁷、山本 晃輔¹、浅井 和弘⁵、六川 修一²、岩崎 晃²、金子 有紀¹、木村 俊義¹、太田 和敬¹、三橋 怜¹、田殿 武雄¹ (1.宇宙航空研究開発機構、2.東京大学、3.情報通信機構、4.千葉大学、5.東北工業大学、6.名古屋大学、7.北海道大学)

キーワード：地球衛星観測システム、タスクフォース、日本学術会議

地球温暖化等の社会的課題に対応して我が国の衛星地球観測システムを構築・運用してゆくことは、政府、省庁のみならず、学界にとっても重要な責務である。日本学術会議の夢ロードマップにおいても、ますますの地球観測の重要性とその利用が謳われている。

また、2017年の日本学術会議からの提言「我が国の地球衛星観測のあり方について」においては、地球衛星観測の戦略的計画推進の必要性、人材育成の体制強化、地球観測データ情報システムの強化、地球観測リテラシーの向上の4つの項目が重要なテーマとして示された。この提言を受け、「今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合・リモートセンシング分科会(TF)」において、地球衛星観測が将来的に目指すべき姿と戦略的計画推進およびコミュニティの強化についての方策とともに、中長期的および短期的な視点に基づく地球衛星観測計画が提案されている。

本TFの提案に基づき、地球科学先端研究のための地球衛星観測システムの構築を進めていく必要がある。あわせて、本システム構築およびデータの解析研究を進めることで、地球規模の気候変動・水循環メカニズムの解明、地球温暖化予測の精度向上、気象予報の高精度化、災害などの社会課題の解決に資し、Society 5.0の実現に寄与することを目的とする研究計画が必要である。

本発表においては、この地球衛星観測システム構築の短中期構想を概説するとともに、さらに50年の将来展望について俯瞰する。